

第3 検討部会 会議録

会議の名称	第5回 第3 検討部会
開催日時	平成19年10月18日(木) 18時40分から20時30分
開催場所	川口市職員会館 講座室B
出席者	(部会長) 佐藤副委員長 (委員) 佐々木委員、増田委員、松本委員、阿部委員、浅羽委員、鈴木委員、森委員
会議内容	・川口市における予算編成の現状と課題 ・ワークショップ「自治の観点から予算編成を考える」
会議資料	・タイムテーブル ・川口市の予算と財政状況 ・決算について ・ワークショップ資料 ・ニセコ町の「もっと知りたいことしの仕事」
発言内容	<p>1. 川口市予算編成の現状と問題点 (佐藤部会長より予算編成に関する考え方について説明) (財政課長より「川口市予算編成の現状と問題点説明」) (NRIより「予算編成の課題」(一般論)の説明)</p> <p>(以下質疑)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予算の使い方が適性だったかどうかの評価はしているか。 行政評価がその役割を果たしている。川口市には、行政評価を担当している課があるが、今はその評価の仕組みを構築している段階である。予算の使い方をチェックした上で、次年度、あるいは、次々年度の予算編成に反映していくため、現在はその仕組みを作っている最中である。 ・評価の仕組みの中に市民は参画しているのか。 今はまだ評価の仕組みが確立していないので、どのような形で市民参画ができるか検討しているところである。現段階では、決算審査特別委員会の中で、決算の認定がその役割を果たしている。さらに、より一層のチェック機能を果たすため、行政評価システムの仕組みを構築している。 ・「枠配分」の枠の決め方はどのようになっているか。 全体を100%とすると85%は経常経費であり、その85%の部分を枠配分している。85%を枠配分した中で、経常経費の使い方はそれぞれの部局に考えてもらっている。残りの15%は政策的予算であり、その部分は部局横断的に決めている。

- ・職員の給与は何の費目に入っているか。
人件費は経常経費に入っている。ただ、個別部局で計上するのではなく、人事部門が枠配分の中でまとめて計上している。
- ・川口市は不交付団体であるが、理由は何か。
地方交付税は、基準財政需要額と基準財政収入額の差から算定される。基準財政需要額とは、基準単価（単位費用）×当該団体で必要な「数」で算出される。必要なコストを積み上げ、基準財政収入額に対してマイナス分が地方交付税として補填される。
- ・一般会計、特別会計、企業会計のそれぞれの比率は？
平成19年度予算で、一般会計は約1290億円、特別会計は13事業合わせて1311億円、企業会計は2事業で291億円、合計で2892億円となっている。
- ・予算と経済政策との関係は？経済政策に対してどのように予算は充てられているのか。
国家レベルでは、経済政策の自由度が高く、様々な施策が考えられるためそこを予算化している。しかし、自治体レベルでは経済政策のインパクトが小さいため、大規模な予算化は行っていない。若干、川口市では、所管する経済部が地場産業の活力を上げるため、融資制度の予算を編成するなどのことは行っている。
- ・学校の新設はどの経費が該当するのか。
政策的経費でまかなう。ただし、施設完成後に係る経費は、経常経費となる。
- ・経常経費85%が妥当かどうかはどのようにチェックしているのか。
例えば、経常経費の中でも扶助費などは、対象者の数だけ請求があるため、事前に支出額が定まらない。このように、法律の制度として支出しなければならないものは、妥当性が検証しづらいものもある。
- ・各部から予算要求が提出されて、枠配分の金額で収まらない場合の判断基準は、どのようなものなのか。
原則は、枠配分の中で予算を組んでもらうが、事情がある場合、財政課が調整し、最終的には市長の判断を仰ぐ。
- ・枠配分の中の細かな項目はどのようにチェックするのか。
枠内であれば、各部に任せている。
- ・収入を増やすという発想、方法はないのか。
市の収入は、国・県の補助金や各施設の使用料や手数料、それに、一番大きい税収がある。税収は、市が努力し徴収率が向上すれば、収入を増やすことはできるが税率や使用料、手数料を上げることは難しい。最近では、ホームページの広告収入があるが、他の収入源を模索している段階である。
- ・経常経費を減らす努力はなされているのか。

	<p>平成 20 年度予算では、5%の経常経費カット等を実施し、その 5%を政策的経費の財源に充てている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・決算書が分かりづらい。市民がわかりやすいものにして欲しい。分かりやすくする努力をしたい。 <p>3. ワークショップ「自治の観点から予算編成を考える」 (ワークショップでは以下の意見が出された) (1) 予算編成過程について</p> <p>予算内容のチェック機能の不備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要な予算なのかどうか精査する所がないのではないか? ・本当に市民のための予算なのか市民議員を入れて考える(時間をかける)べきではないか ・予算額の妥当性をどの様に検証しているか?(高すぎる場合、安すぎる場合) ・市民の代表の議会が予算へのチェック、機能が働いているかわからない。 ・無駄な予算は執行しないと思うがそれをチェックする体制はあるのか? <p>予算の分かりやすさ、公開が不十分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・財政計画見通しは、精度が低くても(仮定、条件の数値であることを明示して)公表しないのは問題である(市民の知る権利がある) ・特別会計の予算編成のプロセスはどうなっているのか? ・予算編成の流れが一般市民には見えにくい ・予算書を理解しやすい見やすいものに(市民がみて) ・予算がどのように決められていくのか、市民に見えない ・議員(住民代表)にもわかりやすい予算書・決算書に変える ・予算・決算の情報が市民に見えにくい(広報誌には掲載されるが概要のみでよくわからない) ・法律で決められた予算書・決算書は市民にわかりにくい 別途、用語も含めてわかりやすい情報を出していくべきではないか ・事業ごとにわかりやすく予算と決算の情報を公表する(市民の関心が高まる) ・歳入出予算を議員さんは項目等をチェックしているか。できにくいようであれば一般市民にもわかりやすい書面にすることはできないのか? ・「予算の議決があった時は直ちに県知事に報告し、かつその要領を住民に公表しなければならない」とあるがどこに公表しているのか? <p>予算編成への市民参画が不十分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民が税金の使い道を決められる仕組みも必要でしょ?(住民税の % を希望する事業に投入するなど)
--	--

- ・目的税を導入することにより市民の意志を反映させることができないか？
- ・市民の意志が反映された予算になっているか？
- ・ムダ使いの声を市民から吸い上げる独自の仕組みを作っては？
- ・予算の必要・不必要について判断するにあたり市民の意見は取り入れられないのか？
- ・予算作成に市民の意見が反映されない。
- ・使ったことへの評価に市民のチェック機能が不十分
- ・経営経費金額の妥当性を市民にも見える形で検討する必要があるのではないのでしょうか？
- ・予算は議会にて議決されるようですが、予算の計上にもっと住民の意見なども取り入れたほうが良いのではないのでしょうか？
- ・枠配分方式と市民ニーズの視点、各部の枠配分予算内の配分を市民に開かれた形で決める必要があるのではないのでしょうか？
- ・市民へ予算編成の参加と周知
- ・不必要な予算は市民レベルで却下する事は出来ないのか？
- ・経常経費への先入観が行政側に強く、志民の目を入れてはどうか？

予算の選択と集中ができていない

- ・たて割りの予算でなく政策的な予算であるべき
- ・政策的経費でメリハリのある予算編成を行うのには限界がある。
- ・市民に必要なものも抑制され、サービス低下になっていないか？

市の方向性・ビジョンとの連携が図られていない

- ・(長期的)川口市のビジョン・方向性に合致した予算となっているか？(地域性、特長)
- ・市長マニフェストと、予算との関連はどうなっているのか？

(2) 予算の執行過程について

計画・評価等との連携が図られていない

- ・予算編成と総合計画・行政評価の関係が明らかでない
- ・同じような目的の事業に重複投資がなされている
- ・施策と予算が切り離されている
- ・各部局との連携した予算編成

効率的な支出へのインセンティブがない

- ・効率的な事業運営を行った職員には(節約できたら)次年度予算上の優遇があるようなシステムを整備する(インセンティブ予算)
- ・年度内に使い切れなかったお金を翌年度にプールできる仕組みが必要で

	<p>は</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なぜ予算を使い切ってしまうのか？ <p>収入を増加させるための取組が見られない</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 税収増のアイデアを市民に公募してみてもは？ ・ 収入を増やすという方策を真剣に考える時期に来ている（市民、民間の知恵活用） ・ 収入を増やし支出を減らす考えを基本におくべき ・ 収入を増やすための予算等はないものなのか？ ・ 財産の有効活用（学校、公共施設等） <p>コストダウンが十分でない</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 民間のノウハウを生かした経費節減策をもっと活用できないか？ <p>突発事項への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 災害等突発的事項に対する予算はどの様に扱われているのか？ <p>予算使途が短視眼である</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 複数年度予算を組むことができる可能性はあるか？ <p>危機感が不十分である</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 税収減になっていくことが市民に影響が大きく出ることをもっと伝えてみては（労働力人口の減） <p>特別会計が肥大化している</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 特別会計のお金（全体の半分を占める）を一般会計に移す検討もあって良いのではと思います
<p>次回以降日程</p>	<p>第6回 10月27日（土）18：30-20：30</p> <p>第7回 11月 1日（木）18：30-20：30</p> <p>第8回 11月22日（木）18：30-20：30</p> <p>第9回 12月6日（木）18：30-20：30</p> <p>第10回 12月14日（金）18：30-20：30</p>